

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102087		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホーム八景水谷		
所在地	熊本市北区八景水谷1丁目5番1号		
自己評価作成日	平成31年1月25日	評価結果市町村受理日	平成31年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市中央区草葉町1-13-205		
訪問調査日	平成31年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交通アクセスのしやすい反面、リスクの高い立地条件となっているため、いかに過ごしやすい環境を提供できるか工夫をしている。玄関は安全対策として顔認証を導入し、防犯も含め安全面に配慮して環境面を整えている。更にご本人が培ってきた、今までのライフスタイルを合わせたケアを提供し健康面に関しては、入院・治療の必要性が発生しても施設内での適切な医療を提供できるように医療との連携を密に行っている。また、ご本人の精神的負担や認知症の進行を防ぐ取り組みを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

熊本市中心部より近く交通アクセス良い立地、安全面に配慮されています。敷地屋外は限られたスペースを有効に活かす工夫がされています。日差しが差し込む明るい玄関ホールは各ユニットを結ぶだけではなく、利用者や家族の団らんの場所にもなっており、利用者と職員による手作りの展示や季節を演出するものが飾られています。法人として取り組むユマニチュード(人間らしさの回復に視点を置いた介護方法)への理解を深め実践につなげる学びを事業所でもスタートしています。開設2年が経過し外部研修、実務者研修への参加を促し、スタッフ全体のスキルアップとケアの質向上を努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	組織全体の夕礼や検討部会やユニット会議にて理念の共有に努め実践に繋がるように行っている。	入口入ってすぐの壁に掲示してあり、利用者家族にも目に入りやすくなっています。ミーティングなどでも、都度意識して実践につなげるよう努めています。	新たに取り組まれているユマニチュード(人間らしさの回復に視点を置いた介護方法)と併せ、職員一人ひとりに浸透し、より利用者目線にたったサービスに繋がることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清水まちづくりセンターの清水公民館等、外部との情報交換を行い働きかけている。また、地域行事への参加も心掛けている。中でも近隣の美容室行かれてたり、地域行事への参加を行っている。	講師を招いての陶芸教室や利用者家族の得意分野を活かしての教室などを開催しています。事業所の玄関ホールにて地域住民と共に編み物を行う機会を持ち、交流が図れています。	利用者やスタッフの得意分野を活かした教室を開くなど、地域により開かれた場所となれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議で認知症の方の実情を話し、現在行っている支援を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議を通し現状報告や課題を挙げて話し合う場を設けている。	会議には家族や自治会、民生委員や地域包括の出席もあり、事業所からの報告のほかに、高齢者向けの体調管理についての情報提供が行われています。地域からは介護に対するニーズなどの意見が出ています。	地域との日常的な交流や災害時の協力体制についてなど、より事業所運営に反映されることが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困りごと等こまめに連絡を取り、事業所の実情やサービスの取り組みを伝え協力関係の構築に繋がるよう取り組んでいる。	市町村とは事業運営で生じた疑問や相談など状況に応じて 都度 連絡を取り、アドバイスを受けられています。また最近では、地域住民からの相談の電話が増え、情報の提供を行っています。	引き続き、市町村と地域住民との連携強化に努められることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	検討部会や各ユニット会議にて身体拘束をしないケアについて学びの場を設け、実践に活かせるよう取り組んでいる。2ヶ月に1回開催している地域運営推進会議でも議案として報告している。	転倒が心配だという家族の声から歩行器に鈴をつけ転倒回避に努めたり、夜間入浴を実施することで睡眠導入剤をしないなど、個別な対応を心掛けています。	ユマニチュードへの理解を通して職員一人ひとりが自ら考えることで、利用者目線のケア＝拘束をしないケアがさらに進むとよいですね。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議やユニット会議等、他事業所合同の会議にて虐待について議題を上げ学び細心の注意をし、防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関先にパンフレットを準備し、他にもユニット会議、検討部会で時間を設け学び、活用できるように支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明責任は果たしている。また改定の際は、書面で説明を行っている。遠方の方は郵送を行い電話で説明を行い理解を得た上で同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地域運営推進会議に参加して頂き意見を述べる機会を設けています。	運営推進会議への出席時や面会時に管理者より声をかけ聴き取る努力がされています。一部の家族とはメールでの連絡報告なども行っています。	運営推進会議だけではなくレクリエーションを開催し、参加していただく機会をつくり、事業所と家族との関係性がより強まることが望まれます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議などで意見や提案を聞き反映させている。	開設以来、個人目標の設定、評価がされています。スタッフの働ける環境の変化に応じて、勤務時間を変更するなどの対応もなされています。	法人内の各委員会の他に事業所内での活動を通して、スタッフの提案力や達成感が生まれ、活発に意見が出やすい職場の雰囲気作りにつながるのではないのでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務に関しては希望休を取りやすくし、子育て支援等にも配慮している。向上心が保てるように各自の目標を把握し、職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会や実務者研修への参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上熊本拠点での施設サービスの会議や外部の研修への参加をし、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活歴など情報交換をし、入居後不安なく過ごして頂けるように配慮し関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に相談を受け、情報交換を行い安心感を持って頂けるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスについては、遠方の家族も多く帰省の際に意見交換や携帯や電話、メール等を活用し支援内容等の把握をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的にならないように意見を聞きながら、利用者に応じた関わりの中で関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症の時期以外は自由に面会をして頂いている。生活のご様子をお伝えし、馴染みの物や季節に応じた衣類などの準備をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所の近所に住まれていた方は、行きつけの美容室や行事参加しておられ馴染みの関係が継続できるように努めている。	感染症に配慮しながら、家族のほか、昔馴染みの知人友人の訪問を受け入れています。利用者の希望により、手紙を書く支援なども行ったことがあります。	すべての利用者に対して絵葉書を作成し、馴染みの人、友人宛に出す支援などが期待されます。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員や利用者同士との馴染みの関係づくりを行っている。また、テーブル等席の配置への配慮に努め共に支え合う関係作りに繋がるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も病院等との情報交換を行ったり相談支援が必要な場合は、フォローを行っている。例えば介護保険更新の準備や家族が提出する場合の書き方等。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中やり取りや家族から聞き取りを行いニーズを把握できるように努めている。	業務日誌や送りノートなどに、利用者の日々の生活の中からでてきた意向を書きとめスタッフ全体で把握できるよう努められています。	法人としての取組みがスタッフ一人一人に浸透することで、利用者目線に合わせたより細やかな希望、意向の把握に繋がることを期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や環境を知り入居前までのサービスの経過等の情報を把握し生活の中に取り込んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の一日の過ごし方や状態に合わせて残存機能を活かす場を設けながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットにて介護計画含めお一人おひとりの現状を話し合いながら意見や工夫を行い改善をすることにより介護計画に反映している。	ユニットのミーティングや事業所の検討会にて話し合いをされています。スタッフ全員が介護計画を理解し、ケアへの落とし込みの深まりが事業所の課題として認識されています。	介護計画への共通認識がもてるようなスタッフそれぞれのスキルアップが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のユニット会議や検討部会での情報交換により実践内容やプランの内容をその都度検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のサービスに関しての要望が多様化しているが、現時点では柔軟な支援に繋がるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や馴染みの美容室などの利用を行っている。その他にも熊日新聞や明治牛乳等の配達も活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続や訪問診療、自分に合った病院の選択を自由にして頂いている。訪問看護・リハによる支援もあり、医療面の充実を図っている。	家族の要望にて病院受診に同行し、状況確認や服薬管理につなげられています。また、協力医による訪問診療や訪問看護、オンコール対応など医療面での充実が図られています。	今後予測される利用者の重度化に伴い、速やかな対応が求められます。更なる医療連携と、事業所としての対応力の向上が期待されます。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケース記録は看護師も一緒に緑で記入。看護職員や介護職員も同じ申し送りノートにて情報交換を行い連携を図っている。必要な受診などはかかりつけ医へ連絡し適切な医療を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力体制を密に取りながら入退院時のサービス担当者会議などを通して病院関係者と関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については文面化し入居の際、家族の意向を確認している。また、必要に応じて再度確認をし、支援が出来るように努めている。	メッセージノートを作成し、終末期に向けた本人と家族の意向の把握に努められています。現在は開設2年ということもあり実績はありませんが、看取り可能な事業所としての準備が進んでいます。	それぞれの要望に応じた看取りができるように、引き続きスタッフのスキルアップと体制づくりが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による緊急時の指導や急変時の対応などはユニット会議や検討部会で話し合いを行う。対応の仕方などは訪問看護からの直接の指導もあり実践的に周知に努めた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策に関しては、担当を決め消防訓練を自主訓練を2ヶ月に一回、総合的に年1回としている。	計画的に消防訓練は実施しています。地域の住民の受け入れも視野に入れ、備蓄などの準備をされています。	様々な災害に対応できるよう、また、利用者のより安全を確保するための地域との協力体制の構築、行政を巻き込んでの避難訓練などの実施が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけなどのコミュニケーションの取り方についてもユニット会議や検討部会で問題がある場合は検討している。	個別入浴の徹底、利用者ごとの要望により同性介助に取り組まれています。外部研修を取り入れられています。	今までのケアを、取り入れた学びを活かした観点から見直し、より利用者本位のケアが実践されることを期待されます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当者を決めニーズに合わせた細やかな対応が出来るように各委員会で検討しユニット会議や検討部会で再度問題提起を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	排泄も個別にて対応し食事時間も本人の希望に合わせて対応している。入浴に関しても希望に合わせた対応が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧道具も揃え、お出かけの際は化粧をして出かけている。また、ネイルやマッサージなども取り入れ対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は朝食のみ事業所で準備している。好みや食事形態なども工夫しその方に合った内容を提供している。能力的に手伝いを希望され方に応じた後片付けなどをお願いしている。	法人一括調理にて配食され、栄養面とケアに注力できる体制です。利用者の能力に応じて配膳や片付けをされています。また、テーブル配置を工夫され、食事そのものだけではなく時間も楽しめるように取り組まれています。	おやつ作りなどイベント的な取組みが始まっています。調理にも参加していただき、季節の旬な素材に触れていたなどなどの機会が更に増える取組みが望まれます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携し、その方に合わせた食事を提供している。食事・水分摂取量は日計表を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの励行を行い、定期的訪問歯科を導入し適切な治療及び助言を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に関しては、その方の状態に合わせたケアを行っている。基本的にオムツ使用は控え、日中はトイレやPTイレを使用して頂くように配慮している。	排泄チェック表を参考に、すべての利用者にトイレでの排泄ができるよう努められています。また、利用者に悟られないよう廃棄された使用済みパットを処分して、清潔を保たれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の把握により好みを把握し個別の飲み物を準備するなど工夫を行っている。また就寝前の水分補給も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の要望に合わせて対応している。同性介助を希望されるため、その配慮も行っている。また、入浴時の保湿クリームを塗布を行い保湿対策をしている。	冬季は週2回、夏場は週3回、個浴対応です。ヒートショックを防ぐために、脱衣所にも暖房器具を用意して対応されています。また、利用者の要望に合わせた石鹸やシャンプーの使い分けもされています。	浴室に入浴を楽しめるような工夫を取り入れられることを期待します。また、重度化や拒否時に対応できるようなハードソフト両面の強化を進めていかれるといいですね。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた生活習慣を大切に、ご自身の馴染みの枕や布団や毛布を準備してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師や准看護師の管理により4重チェックを実施している。病状変化や内服が変わった際には記録や各ユニットにある申し送りノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に合わせた嗜好品やレクリエーション、役割を持って頂き気分転換に繋がるように行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	図書館や八景水谷公園等外出を行っているが、一人一人に合わせた外出は行っていない。	行事外出は計画的に実施されています。日常的な外出は立地条件から難しいなか、敷地内に花を植え散歩コースを確保したり、外でお茶を楽しめるような場所を設けたりと、気分転換できる工夫がされています。	ご家族のご協力もおおき、月1回程度は個別で外出が出来るような支援を検討されることを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現時点ではお金の管理は預かり金にて対応しており、個人で持たせることはしていない。また家族の希望もあり本人に持たせることでトラブルになる可能性もあり希望されない家族もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を活用したり、メールなどで支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生面や安全面に配慮し、照明の調整や空調、室内温度などにも配慮している。	利用者の安全と動線を優先した空間づくりに努められています。玄関口には職員手作りの飾りがおかれ、各ユニットのリビングは利用者の個性に合わせて異なる雰囲気となっています。共用部分でありながら、一人になり気分転換できる場所も設けてあります。	リビング壁面を利用した展示スペースの計画をされています。ユニットごとの季節が感じられるような工夫が期待されます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間を分けており気の合う方同士で過ごして頂くよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んで頂き、本人が安心して過ごして頂けるようにしている。	タンスや仏壇などの馴染みのものの持ち込みや、利用者によっては壁に自分の作品の貼り付けがされていたりと、本人が安心して生活できる空間づくりに努められています。	今後も安全面に配慮しつつ、利用者の居心地のいい空間づくりへの工夫に取り組まれることを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、廊下の長さも確保されており自主訓練として散歩や歩行訓練等を行っている。家事支援として、掃除や洗濯干し、洗濯たみ等を行い、今まで培った日々の暮らしの中の雰囲気に触れて頂いている。		